

計画全般・第2部に対する主なご意見

□計画全般

【橋爪委員】

○今回の計画は、ポスト大阪関西万博の事業が並ぶという形になるであろうと思っている。ベイエリア全体を次世代に向けてリノベーションしていく計画ができれば良い。

【小林委員】

○流れが変わったという想いを持たないと取り残されてしまうという気持ちが非常に強いので、広域地方計画は明るい未来を描くものにしたい。元気が出るアイデアを集めていきたい。

□第2部 関西の目指す姿と戦略

第1節 快適で豊かに暮らせる地域生活圏の実現を目指す関西

【長町委員】

○コロナの影響もあり、より柔軟な働き方が可能になってきている。企業も様々な取組をしているが、それをサポートできるような体制が、行政であれば良い。

【大串委員】

○グリーンで、ウォークブルで、多様なモビリティが共存する都市ということで、都市空間の整備を進めて欲しい。またロードプライシングのような仕組みを先陣を切って進めて欲しい。

○ほこみちで、御堂筋の淀屋橋からなんばまでがウォークブルな街として創り直されている所が流石である。十三駅等の都市近郊でこのようなことが実現していくと、大阪の魅力もしくは近畿圏の魅力が倍増する。

○ロードプライシングは、特に観光被害、観光公害と言われるような所に、試みをしてはどうか。課金をすることで、様々な環境整備にお金が使えらるということもある。野心的な試みは、関西こそできるのではないか。

○交通結節点をシェアタイプのマイクロモビリティとか、公共交通優先のエリアに変えていく試みを率先して実施してもらいたい。交通結節点は人が集まる重要なエリアとなっているので、人中心の構想交通結節点をつくりあげられるのは、関西が最初ではないか。

第2節 世界からヒト・モノ・カネ・情報を呼び込み、海外との架け橋となる関西

【長町委員】

○大学生のうちからもっと社会活動等ができる場があれば良い。学生を含めた若い人が活躍できる地方を目指して、大学、地域、行政、企業などとの連携がより密接になると、いろいろな新しい取組ができるのではないか。

【大串委員】

○3つの空港が近接している地域は他にないため、使い倒して頂きたい。人口減少や高齢化が進んでいる中で、交流人口を増やすことが大事であるという話があった。それぞれの空港に特色を持たし、最大限使い倒すということがこれまで以上に重要になってくる。

○空飛ぶクルマは、近畿が日本発の商用利用を実現して頂きたい。近畿圏は2025年の大阪関西

万博で空飛ぶクルマの活用が検討されている。このため、近畿圏が商用ルール形成のスタンダードをつくることができるのではないかと。

【竹林委員】

- 不安定な状態の時に堅い需要は、ビジネス需要である。日本の産業ネットワークがアジアと形成されるのであれば、ビジネス需要が来る。そういうことを頭において、産業や輸送、それを支える国内輸送の配置、そういうものを考えていくことをしなければならない。

第3節 巨大災害リスクに対して持続可能な社会を目指す関西

【鎌田委員】

- イノベーションと技術により、高速道路のみならず財政事情の厳しい地方管理の構造物でも、経済的なインフラメンテナンス管理が可能となるほか、技能工の減少や労働人口減少問題に対しても大きな貢献ができるのではないかと。
- インフラの長寿命化の将来を考えると、若い人達の理解と協力というのが不可欠であり、次世代の若者をいかに育てていくかということが極めて重要。そのためには、こうした取組を継続していくことが重要。
- 民間の力をうまく使えるコンセッションの形を、今後も上手く活用できれば、最先端の技術を柔軟に採用することが可能となり、社会基盤施設のいわゆる維持管理分野においては非常に効果的ではないかと。

【藤井委員】

- 河川の巨大洪水がなくなる対策をしっかりと行い、守りと攻めをしっかりと進めていくことで、巨大災害にあっても関西というものが発展して未来があると思うため、こういったものについても検討頂けると良いのではないかと。

第4節 人と自然の共生、脱炭素、SDGsを実現する関西

【都司委員】

- カーボンニュートラルへの貢献だけでなく、水源の涵養や生物多様性の保全、地場産業の育成、資源循環と森林の多面的な機能を活用していくことは関西の大きな課題であって、チャンスでもある。

【平山委員】

- 自然環境保全に関わる政策を進める際、近畿圏の自然環境としてのポテンシャルや特徴について整理し、それらの保全について追記が必要ではないかと。

第5節 日本の歴史・伝統文化が集積し、世界を魅了し続ける関西

【高橋委員】

- 将来において、誰もが宿泊旅行をしやすい状況というものをどうやって作り上げていくのかを一方で考えても良いのではないかと。今は5つ星のホテルを誘致しようという方向での議論が盛んだが、バランスのとれた観光振興のあり方というのを考えていくべきではないかと。

【大串委員】

- 関西の観光PRは、情報が載りすぎていて、よくわからない。重要顧客に対するプロモーション

ョンとして、様々な場所を最速で駆け抜けることを推奨しているような、供給者視点のツーリズムになっている。

【都司委員】

○アフターコロナの時代に入り、ビジネス需要の減少に対し、戻りつつあるインバウンドも含め、観光による交流人口を増やす取り組みを通じて、地域活力の強化に貢献していきたい。